

2016年12月21日に政府は高速増殖原子炉「もんじゅ」を廃炉にする正式決定を下しました。1985年から30年以上の時間をかけ、巨額の費用をかけ、英知を結集させたはずでしたが、稼働する可能性はないという現実を認めざるを得ませんでした。そのうえ、廃炉にする費用も3500億円と見なされています。従って、「もんじゅ」の燃料を生産するために、約30年前に青森県六ヶ所村に再処理工場が建設されましたが、これも無用となるべきものです。ところが政府は「高速増殖炉に関する技術研究を今後10年間は継続する方針」を持つと発表したのです。科学的知見、現実をどのように受け止めているのでしょうか。全く理解できません。



使用済み核燃料貯蔵容器キャニスター模型

現在はまだ、六ヶ所再処理工場は稼働する能力はありませんが、使用済み核燃料棒を英仏で処理してもらい、高レベル放射性廃棄物(69本のガラス固化体)として、巨大なキャニスター(全長5.4m、直径2.5m、重量120t)に入れて冷却貯蔵しています。それが現在1800本、地下で空冷により、中間的に貯蔵されています。

私は昨年10月に六ヶ所再処理工場を見学し、それ以来、青森県のニュースをチェックしてきました。非常に危険なものが扱われているにも関わらず、次々と事故が報告されています。

10月21日 22設備でも無許可	高周波を利用する19施設で、法律上必要な許可を得ずに使用されていたうえ、中には書類を偽造して許可を得たかのように装っていた。
10月21日 「排風機」故障	試験運転でできた高レベルの放射性廃液から出たガスを、別の装置に送る「排風機」とよばれる機械から故障を知らせる警報が鳴った。
10月28日 工事図面に誤データ	建屋の間をつなぐトンネルに設置してあった配管を取り替える工事の図面に、実際の工事内容とは異なるデータを誤って、掲載していたことが検査で判明した。
11月7日 機械停止	「ガラス固化体」を、安全検査で移動させていたところ、天井に設置されたクレーンがおよそ50分間にわたって停止し、手動で操縦して作業を完了した。
11月15日 非常用電源が故障	建屋に設置された非常用の電源装置の一部で異常を知らせる警報が鳴り、確認したところ、故障していることが分かりました。これが3度目である。
11月24日 Lアラート作動せず	福島県沖で起きた地震で津波注意報が出されたことを受けて、六ヶ所村は一時沿岸部に避難勧告を出しましたが、情報を住民に伝える「Lアラート」と呼ばれるシステムが作動しなかった。
12月29日 台風で雨水流入	台風7号の大雨の影響で、再処理工場の10か所の建物におよそ30トンもの雨水が流入、ボイラーなど安全上重要な機器がある建物にも水が流れ込む。

短期間の間にこれだけの事故を起こし、それでも、放射性物質が外部に漏れる事は無かったと報告しています。検査を受けて発覚した件もありましたから、何を持って安全を証明できるのでしょうか。原子力規制委員会でさえ、再処理工場の組織全体に問題があると指摘しています。一日も早く、真剣に国民の安全を守る道へ、切り替えてほしいと願います。